未来 100 年へ柔道整復術の更なる発展を誓う

社団法人設立 65 周年記念式典

柔道整復術公認 100 周年記念祝賀会

公益社団法人日本柔道整復師会（以下、日整）は平成 31 年 3 月 7 日（木）、社団法人設立 65 周年記念式典と柔道整復術公認 100 周年記念祝賀会を、パレスホテル東京において盛大に挙行した。元衆議院議長日整顧問団世話人会代表の伊吹文明衆議院議員をはじめ政界、官界など各界から多数の来賓を迎え、会員併せて 420 名が出席し 100 年の歴史を胸に、未来に向かって更なる躍進を誓い合った。

工藤鉄男会長は式辞のなかで、先達が幾多の困難を乗り越えて築いてきた 100 年の長い歴史を振り返り、ご恩をこうむった全ての方々に深甚なる敬意と感謝の意を表した。

さらに公認から 100 年、脈々として継承されてきた骨折・脱臼等の整復技術を後世に遺すべく、伝統技術継承と発展に意を注ぐ決意を示した。

記念式典

記念式典は午後 1 時から三橋裕之総務部長の司会で、萩原正和副会長の開式の辞に始まり、国歌、日整会歌を斉唱した。工藤会長の式辞に続いて根本匠厚生労働大臣代理の鈴木康裕厚生労働省医務技監が祝辞を述べられた後、表彰式に移った。鈴木医務技監により厚生労働大臣表彰の授賞式が行われた。最初に柔道整復業務功労者 43 名の名前が読み上げられ、代表して群馬県の大藤忠昭会員が受賞した。次に労災補償行政関係功労者 38 名の名前が読み上げられ、代表して愛知県の森川伸治会員が受賞した。以上の表彰が行われた後、受賞者を代表して大藤忠昭会員が謝辞を述べた。

会長表彰は、日整の役員として会務に精励し、業界の発展に貢献された 64 名の方々に贈られ、代表して長崎県の太田恵一郎会員が受賞した。会長感謝状は、多年にわたる献身的な努力によって業界の発展に尽くされた会員 96 名の方々に贈られ、代表して静岡県の小澤喜一会員が受賞した。

永年業務精励会員表彰は、40 年以上日整会員として柔道整復師業務に精励し、地域社会の保健衛生に寄与された 590 名の方々に贈られ、代表して栃木県の片岡祥二会員が受賞した。

以上の表彰が行われた後、会長表彰、会長感謝状、永年業務精励会員表彰受賞者を代表して片岡祥二会員が謝辞を述べた。

式典は厳粛に執り行われ、松岡保副会長の閉式の辞により終了した。

特別記念講演

記念式典終了後、午後 2 時から厚生労働省医政局長の吉田学氏が「少子高齢社会と社会保障」と題し特別記念講演された。吉田氏は講演のなかで 2040 年に向けて、現役世代の減少は大きな問題ではあるが、元気な高齢者も見られ、誰もがより長く元気で活躍できる社会の実現を目指していくと話された。

安倍総理の VTR ビデオメッセージ

「多くの国民から支持されることを願う」

柔道整復術公認 100 周年記念祝賀会

標記祝賀会が午後 4 時からパレスホテル東京「葵」において、元テレビ朝日アナウンサーの佐々木正洋さんが司会を努め開会を宣した。

はじめに柔道整復術の歴史とそれを広めていく活動を紹介するビデオが放映された。

暗転からスポットが当たった日整の役員が並び紹介があった。

挨拶に立った工藤鉄男会長は、「明治 18 年に伝統的療法の規制が法的に行われ、医師でなければ接骨業を開業することができなくなり、柔術家による接骨業は消滅の危機を迎えました。この復活を願い、大正 2 年に竹岡宇三郎氏、萩原七郎氏が『柔道接骨術公認期成会』を立ち上げ、この時代にタスキをつなげました。こうした流れの中、嘉納治五郎師範は、講道館柔道指南役の山下義韶十段が請願者代表を務める接骨術営業を政府に認めさせる活動に賛助し、これらの運動が実り、大正 9 年に『接骨術』は『柔道整復術』として公認されました。

『柔道整復術』のタスキをつないできたこの 100 年に各界各層より多数のご来賓の皆様にご臨席を賜り、誠に光栄の極みです。共にお祝いし感謝できることはこの上ない喜びです。

多くの方々のお力添えと、国民の皆様からの信頼とご支持のもとに業界が進展し、100 年の歴史を築くことができました。ここに『匠の技』復活宣言をし、これからも、人を裁かず、天を敬い、感謝と思いやりの心、利他の精神、確かな技術・知識・で患者さんへの安心安全な柔道整復術の提供をめざし、これまで以上にきめ細かく社会から信頼される業界づくりを確立して参ります」と述べた。

次に、ご来賓のご祝辞へと移り、はじめに安部 晋三内閣総理大臣・自由民主党総裁のビデオメッセージがスクリーンに放映された。

安倍総理は、メッセージの中で「柔道整復術は今後さらに超高齢社会になる日本において、国民の健康維持増進に寄与し、地域を元気にする源になっていることが期待されています。将来不可欠な存在であり多くの国民から支持されることを願っています。骨折・脱臼の整復術を後世に伝えるために『匠の技 伝承プロジェクト』をスタートさせると聞いています。このプロジェクトを成功に導き、全国均一で安心安全な施術が行われるよう、社会から信頼される業界となるように願っています。またスポーツ分野でも救護において活躍し東京オリパラの大会を成功に導いてください」と述べられた。

続いて、ご臨席いただいた根本匠厚生労働大臣代理の鈴木康裕厚生労働省医務技監、元衆議院議長であり日整顧問団世話人会代表の伊吹文明衆議院議員他ご来賓の先生方から心温まるご祝辞をいただいた後、公認 100 年を振り返る動画が放映された。

次に、乾杯の発声に立った公益財団法人講道館の上村春樹館長が声高らかに杯を挙げ、祝宴が始まった。

その中で、国務大臣をはじめ衆参議院議員、都議会議員の皆様から自己紹介とご挨拶を頂戴した。

最後に、日本柔道整復師会コンプライアンス委員で、内閣法制局参事官、大蔵省造幣局長をご歴任されブレークモア法律事務所の志田康雄顧問弁護士が万歳三唱の発声に立ち、両副会長も両脇に立ち、声高らかに万歳三唱が行われた。

閉会の辞を萩原正和副会長が力強く述べ、祝宴を締めくくった。

公益社団法人 日本柔道整復師会
柔道整復術公認100周年記念祝賀会

公益社団法人 日本柔道整復師会
柔道整復術公認100周年記念祝賀会